

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 3 月 31日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493500015		
法人名	株式会社 なごみ		
事業所名	グループホーム なごみの里		
所在地	広島県山県郡安芸太田町大字加計5193番地 (電話) 0826-25-0330		
自己評価作成日	H27. 3. 21	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JirgyosyoCd=3493500015-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JirgyosyoCd=3493500015-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化
所在地	広島市安佐北区安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成27年3月28日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

・山間にある、自然豊かな地域で静かな場所に位置する1ユニットのグループホームです。ホームは平屋建てで、どの部屋の窓からも四季を感じる事が出来ます。食事はスタッフの手作りで、自家野菜や、近所の方より野菜などの提供もあります。地域との交流もあり、ボランティアの参加も多くあります。味噌、漬物、蒟蒻、茶葉を利用者様と一緒に手作りしています。毎日全員入浴をしてもらっています。毎朝出来る方には、ご自分の部屋の床を雑巾がけしてもらっています。毎日、午前10時半頃より、ラジオ体操第1・2をして、近くの公園まで散歩に行っています。道中はゴミを拾ったり、公園で時にはグランドゴルフをしたりしています。毎月町内の病院より往診されており、何かあればホームの専属の看護師が駆けつけ必要であれば、病院受診をしています。毎食前には口腔体操をし、毎食後は口腔ケアを実践し、誤嚥予防をしています。島根の水族館や、安佐動物園や御花見、紅葉狩りなど、年に数回日帰りでの遠出をしています。個々の利用者様に添ったケアを心がけ、各利用者様の申し送りを勤務交替時には、記録を通して行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

元、法務局の跡に開設された、グループホームなごみの里は、自然に恵まれ、広い敷地内の畑では、野菜や四季の花が植えられています。近隣には中学校があり、商店街もある、生活感のある環境に恵まれています。利用者の方が家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりの能力、人生観などを尊重し、穏やかな環境の中で、ゆったりと楽しく、その人らしい、生活が過ごせるようホーム長、職員は日々支援しています。、又、近くでのイベントに積極的に参加され、地域交流をしています。、ホーム長は認知症アドバイザーの資格をもち、地域サロンの講演会の講師等の活動も引き受けられ、地域貢献をし、支援に取り組んでいるホームです。

グループホーム なごみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ホームの理念は食堂及び、玄関に掲げて、共有している。日々、実践につなげるように、している。	なごみの里の理念(・美味しい食事を作ります。・安心して健康で過ごしていただきます。・清潔に努めます。・地域と交流します。)を掲げ、なごみの里の目指すものを職員、全員が意思統一している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	当ホームの敬老会はボランティアの方をお呼びした。コンサートなど、地元での行事には積極的に参加。町内社協主催の運動会にも参加した。中学校より、職場体験に来られた。ホーム長は地域の福祉講座や、高齢者を考える会などに講師として参加している。	地域行事(地域の敬老会、コンサート、神楽、マンドリン、合唱、)に積極的に参加している。中学生の職場体験の受け入れ、安芸太田町の地域おこし協力隊の受け入れをしている。ホーム長は社会福祉協議会の講師、高齢者を考える会の講師として参加し、地域貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症サポート研修、キャラバンメイトに登録し、活動している。地域の福祉講座や、高齢者を考える会などにホーム長が講師として参加している。訪問介護に一時利用できなかった方に、週4回食事を提供したこともある。(担当ケアマネが持参された。)		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域包括支援センターの保健師、地区の民生委員、地域のボランティアの方、利用者の家族の方など、昼食を兼ねて行っている。会議にてイベント時の民政委員さんの見学を兼ねたボランティア参加の話があり、一緒に参加していただいた。	運営推進は2ヶ月に1回開かれ、地域包括支援センター保健師、民生員、ボランティア、家族、ホーム長の、出席で昼食を兼ねて開かれ、ホームの現状報告、行事予定、利用者の状況など報告し、出席者からの意見や提案、情報を聞き、日々のホームでの生活に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	協力病院の建物内に町の福祉課があり、何かあれば相談を行っている。	分からない事があれば福祉課に相談する。ホーム長は社会福祉協議会の評議員をしており、社会福祉協議会から講師の依頼をされることが有り地域の方々に話しをしている。地域包括支援センターとは、常に連絡を取り、顔の見える関係づくりをしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	夜間のみ防犯と事故防止の為、玄関の施錠はしている。昼間はしていない。身体拘束はしていない。毎月のスタッフ会議にて、拘束となる具体例をあげたりして、拘束の予防に努めている。	身体拘束については、身体拘束はしないケアの研修で理解し、ミーティングで実例をあげて話し、拘束をしない取り組みに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	成年後見制度を利用されている利用者様にはスタッフ会議にて、利用されていることをスタッフに承知していた。		

グループホーム なごみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入所時、契約書、重要事項説明書にて、説明し、わからないこと等あれば、説明している。問題行動等ある利用者との家族とは、密に連絡を取り合いながら、時には病院受診に付き添っていただき、説明している。		
9		契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時、契約書、重要事項説明書にて、説明し、わからないこと等あれば、説明している。問題行動等あり当ホームにおいての介護が困難と見られる利用者様との家族とは、密に連絡を取り合いながら、時には病院受診に付き添っていただき、説明し、退所等必要あれば家族の了承を得ていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議に家族にも参加してもらい、意見等聞いている。その意見を職員会議で協議して、解決方法を意見交換し解決している。	運営推進会議に出席された家族の意見、訪問の際の要望や意見は、職員会議で話し合いをする。家族の方が認知症について話しが聞きたいと、要望があり、家族会でホーム長が認知症について話されたことも、一例です。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のスタッフ会議にて意見等聞く機会を持っている。社長、ホーム長、他スタッフ全員参加し、意見、提案等あれば聞いている。社長もホーム長も勤務にスタッフとして入り、間でも意見等聞くようにしている。	月に1回のミーティングでは社長、ホーム長、職員全員の参加で、話し合っている、個々の事、全体の事の意見、提案(例えば・利用者ができることはしてもらう方がよいのではの提案が、実践に繋がり良い結果になっている)を具体的に話し合っている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	畑作り、花作り、料理作り、漬物作り、片づけ、観賞用の鉢作り、話上手、などスタッフの個人の得意とすることを自由にしてもらっている。		
13		○職員を育てる取組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の参加時には、研修手当、交通費を出して、参加してもらうように促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他グループホームとの交流を考えているが、実施にはいたっていない。同町内で他にGHIはない。町内の勉強会には、参加できるスタッフには参加し、他介護施設の職員と交流をしている。		

グループホーム なごみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前訪問で利用者様にお会いして、要望等、聞いている。入所時には事前にお聞きした利用者様の特徴、介護の必要性を書いたアセスメント用紙をスタッフ間で共有し、スタッフが把握し、利用者様が安心して暮らして頂けるように、声掛けしやすい雰囲気を作るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族と連絡を取り合い、利用者さんがホームに、早くなじんでいただけるように、連絡を密に取りながら、報告相談をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	最初に担当のケアマネと連絡を取り合い、今入所できる段階であるか聞いている。その後直接家族に入所の順番が来たことを連絡している。時には近所の方にも相談させてもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食器拭き、洗濯畳み干し、雑巾がけ、こんにやく作り、庭の草取り等お手伝いできることはしていただいている。していただいたときには、感謝の言葉を述べている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	年2回家族会開催。家族の方で支援できることはしてもらっている。病院受診の付き添い、自宅への帰宅支援をしてくださる方もおられる。面会時間は設けず、いつでも面会をしていただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者様が居られた地域での敬老会や、食事会、職場の〇日会も参加してもらっている。親戚の方の不幸等あれば、挨拶に付き添っている。	家族、地域の方の面会があり、ホームへは何時でも気軽に立ち寄ってもらえるようにしている。、今まで住まれていた地域の敬老会、食事会、に参加して、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	皆さん表情が見えるように六角形のテーブルを購入した。利用者様の各個人で膝下の長さに合わせて椅子を指定。背もたれにし各名前を貼っている。背の低い方には別に小さいテーブルを使用してもらっている。リビングにはソファ3つ置き、誰でも座っていただけるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	病院へ入院された方にはお見舞いをして、家族の相談にも応じている。		

グループホーム なごみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各利用者様の食事の嫌いなものを把握して、冷蔵庫にメモをしておき、スタッフ間で共有している。庭への散歩は自由にしている。家族了承の元、1人で近所に10～15分位散歩に行かれる方もおられる。	日常生活の利用者との関わりの中で利用者の思いをくみ取り、自由な生活を過ごしてもらえるよう支援している。庭に出て草取りをされる方、一人で散歩に出られる方、その方の意向の把握に努め支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前の面談時に、家族や入居者様にお話しを伺い、入居申し込みまでの至った経過、今利用している介護サービスを把握し、これからの当ホームでの暮らし方、環境を説明している。可能な方にはホームを見学してもらっている。担当ケアマネにも、利用者様の経過などを、可能な限り情報を提供してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職歴や、趣味などを把握し、精神的な(被害妄想など)問題等、現在の状態を把握するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入所前の面談時に、家族や入居者様にお話しを伺い、当ホームのできる事を把握し、介護計画に反映している。	利用者の日々の様子や家族の意見を聞き、全員ミーティングの中で、意見を出し合い、多くの意見や気づきをケアプランに入れ、ケアマネジャー2名で介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録は個別に時間を追って記録し、特に本人が言われたことを記録するようにしている。申し送り簿を通して、夜勤者から日勤者、日勤者から夜勤者のスタッフに伝わるように工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	行きつけの美容院や理容院へ送迎している。一緒に行きつけの花屋へ生花を買いに行ったり、週2回のリハビリへの送迎、郵便局や買い物送迎、必要なものの購入等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	元居住地の地域での敬老会や元職場のOB会、親睦会等に参加される方々がおられる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月1回協力病院より往診してもらっている。専門科に受診したいと希望される方には、家族と一緒に受診してもらっている。必要なときには、当ホーム看護師が付き添い一緒に受診している。	かかりつけ医による月に1回の往診をしてもらっている。専門医での受診の際には家族に受診をお願いしている。	

グループホーム なごみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者様に急変などがある場合は当ホーム専属の看護師やホーム長に電話や、メールなどにて報告・連絡・相談をし、必要であれば、病院受診をしたり、必要な時には家族に連絡し、一緒に付き添いをお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院入院時にはサマリーを作成し、病棟の担当の方へ渡している。協力病院地域支援室のケアマネや、理学療法士と、連絡を取り合い、退院の時期、状態の把握に努めている。退院前には、情報収集のために、病院にもお見舞いに行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時には、「看取りについての事前確認書」を渡し、記入してもらっている。急変時の対応や重度化した場合には、その都度、家族と話をし、昨年は2名看取りをさせてもらった。暴力等で対応が困難な場合は、家族と精神科受診し、認知症専門病棟に入院していただいた。	重度化対応については入居時、重要事項説明書で家族に説明し、ホームでできる事、できない事を伝えている。状況変化、重度化した場合、再度、家族と話し合い医師、看護師、職員で協議し看取り対応をする事もある。昨年(26年)2名の看取りがあり自然な形で亡くなられた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	広島市防災センターで行われる、急変時の対応等の研修に受講してもらっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回避難訓練、年1回の消火訓練、通報訓練を行っている。地元の消防団の方にも、連絡先を聞いている。	年2回避難訓練が行われている。1回は消防署職員指導の基に消火訓練、避難訓練を行っている。地域の消防団の協力もお願いしている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとり、個々に応じて言葉掛けを行っている。	一人ひとりに応じた言葉づかいには気をつけた接遇をしている。	日々の生活の中で、慣れあいにならないよう、プライバシー保護のマニュアルの具体例等を作り、職員に周知していく予定である
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人一人、話をゆっくり聞くようにしている。入浴は毎日ではあるが、入りたくない方は、その日は見合わせたり、順番を後回しにしてまた声をかけたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援してい	散歩のコースを希望があれば、遠回りをして、買い物を兼ねている。雨天時のレクリエーションは利用者様達の希望をお聞きして、決定している。		

グループホーム なごみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月に1回美容師の方が来られて、カットしてもらっている。行きつけの美容院、理容院に行きたい方は、送迎している。洋服は、一緒に買い物に行ったり、買い物に行かれない方には、2~3枚借りて帰り、本人に選んでいただいている。ご自分が自宅に着ていた洋服を持参してもらっている。(本人の希望を重視)。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	ホームの畑の野菜を取ってきてもらったり、野菜の始末を一緒にしている。当番を決めて茶碗拭きやお膳を拭いてもらったりしている。地域に馴染んだ料理(田舎料理)を作るように心がけている。食事は、スタッフと一緒に同じ食卓で同じものを食べている。	ホームの畑で出来た野菜を利用者の方と一緒に収穫し、新鮮な野菜で手作りの料理を作り、お茶、味噌、漬物、こんにゃく、切り干し大根、干し椎茸、など保存食や加工食品を地産食材で、利用者の方に合った、旬の料理を作り、全員、普通食でお箸で食べられている。地域の方から野菜やお寿司、おはぎなどの提供がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	各利用者様のお膳を置く位置を決めて、一人一人の食事量や、嫌いなもの(冷蔵庫のボードに書いている)を申し送り等で把握し、配膳している。毎食前や、1日2回のおやつと午前中の散歩時にはお茶を飲んでもらうようにしている。常時、お茶をポットに入れていて、希望時には飲んでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは全員毎食後、入歯は外して入歯ブラシで洗い、舌はクルリーナブラシで、自歯のある方には歯間ブラシで磨いている。毎日夕食後には、入れ歯洗浄剤を入れて、消毒。随時歯科医師にも相談し、往診もお願いしている。年に1回町内地域包括支援センターの歯科衛生士さんに、利用者様全員口腔内のチェックしてもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	オムツは使用していない。2名は個々の排泄表を作りチェックし、誘導しなければならない人は誘導している。紙パンツ利用の方は毎日朝、晩、入浴時には、失禁がないかチェックし、失禁等あれば、交換している。各居室にトイレがある。布パンツは2名。	居室にはトイレが設置され、掃除が徹底しており、匂い対策がしっかりとしてある。布パンツ、紙パンツ、パットでオムツは使用していない。重度になられた方も、最後までトイレ使用での介助がされた。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事はなるべく、野菜を中心に献立を考える。毎日の散歩へ誘う。散歩前には、ラジオ体操第1・2を実施している。1日2回あるおやつ時にはどちらかで、牛乳を飲んでもらう。週4回ヤクルト飲用してもらっている。水分補給は41参照。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	毎日午後全員に入浴実施しているが、拒否される時には、無理強いせず、順番を後回しにしたり、見合わせたりしている。1番風呂は毎日変わってもらっている。	毎日の入浴で清潔を保持している。入浴を拒否される方には、あくる日に回って入ってもらうなど、気分に合わせて入浴してもらえるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個室で自分持ちの布団を持ってきてもらって使用している。冬場の暖もアンカや電気毛布など個々の使用していたものを利用してもらっている。なかなか寝られない人などには、お菓子とお茶などを提供している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	毎日、スタッフルームのホワイトボードに各個人の薬を入れて、各担当スタッフが、手渡しして飲んでもらっている。副作用が把握できるように、各個人の介護記録簿に内服表をつけている。		

グループホーム なごみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	年に4～5回、春は桜夏はアジサイ等の花見、秋は紅葉狩り等に、各スタッフの自家用車を出しあったり、マイクロバスを貸切って、安佐動物園や、島根のアクアス水族館など芸北、町内など遠出をしている。ギターコンサートや芸能発表会など観覧にも行っている。池坊の先生には生花、編み物が好きな方には、マフラーを作ってもらったり、縫い物が上手な方には繕い物をしてもらっている。年数回色々な団体の方が童謡や歌謡曲を合唱などしていただいている。いつもの公園で春には弁当持参でお花見をしている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日にはラジオ体操の後、近くの公園まで散歩に行っている。週末など、家族の方と自宅へ帰られる方もある。外出の夕食はメニューを選んでもらっている。昨年のアジサイツアーには民政委員さんの協力をしていただいた。	雨や雪の日以外、毎日散歩や、買い物に出かけ日常的に外出している。年間の外出計画の際は、利用者の意向を取り入れ、四季折々の花(あやめ、もみじ、ふじ、さくら、イチヨウ)を見に行き、あじさいツアーには、高齢者部会のボランティア20名の協力で出かけた。動物園、宮島などのにも出かけて利用者の方の楽しみになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の了解のもと、各個人お金を持ってもらっている人もいる。散歩時に買い物へ寄ったり、遠出の外出時には、お金を持参して買い物を自由にしていただけるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	公衆電話1台あり。各個人で自由に電話したりしてもらっている。手紙のやりとりをしている方も居られる。昨年是一年賀状を出された方数名居られた。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関と和室には、常時生花を入れてもらっている。各居室とリビングには、空気清浄脱臭機を完備している。食堂には天窗があり、日中は明かりは殆ど不要。各居室と共有の空間には冷暖房完備、冬には床暖房が入る。毎朝、床はモップがけの後には、利用者様も一緒に雑巾がけをしている。毎朝スタッフはトイレと洗面台の掃除も徹底している。利用者様の椅子は身長に合わせて高さを34.36.38cmの3段階に変更している。背もたれには名前を貼っている。	リビングは開放的で明るく、玄関、和室には利用者の方が生けられた、桜や水仙の花が春を感じる雰囲気と和みある空間づくりがあり、隅々まで清潔に掃除が行き届いている。六角テーブルを囲み、それぞれの高さに合わせた、椅子で対応され、ゆったりと、思い思いに過ごされている、	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファをリビングに3つ置き、誰でも座れるようにしている。和室も腰掛けられるような高さで縁には絨毯を貼り付けている。食堂兼リビングには40インチのテレビを置いている。食堂のテーブルは高さが65cm、形は六角形で、皆さんの表情が見える。お客様が来られた時には、長方形に変える事が出来る。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使っていたタンスや、椅子、テレビなど配置。本人のADLに応じてベッドの位置を移動している。テレビの持ち込みもあり。自室に花を飾られている方もおられる。	家庭で使われていた馴染みの家具(椅子、タンス、テレビ)が置かれ、居室は清潔に保たれ、季節の花が飾られ、利用者が居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	移動時、歩行器が必要な人には、使用してもらっている。廊下や食堂には手すりを配置、すべて床はバリアフリー。食堂に大きな日付の札を掲げている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム なごみの里

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームなごみの里

作成日 平成 27 年 3 月 31 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	25	年2回の避難訓練に地域との協力体制について。	年6回の運営推進会議の時、地域の民生委員の協力の基、訓練を行う。	3月30日に今年度6回目の運営推進を行うので、その時点で協力をお願いをする。	3ヶ月
2	36	一人ひとりのプライバシーの確保のマニュアル作りと研修について。	マニュアル作りと研修をスタッフ会議で行う。	月1回初旬に行うスタッフ会議で、プライバシー確保の研修を行う。	3ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。